

平成28年度第2回沼田市市民構想会議（会議概要）

- 1 日 時 平成28年10月27日（木）午後2時から午後3時20分
2 場 所 沼田市役所 北庁舎 第三会議室
3 出席者 委員17名（欠席19名）
アドバイザー 篠田暢之氏
沼田市 副市長、総務部長、市民部長、健康福祉部長、
都市建設部長、議会事務局長
（事務局：企画課長、企画係長）

4 会議内容

（1）開 会（事務局）

（2）あいさつ

会 長： これまで3つのまちづくり委員会で協議し、まとめた成果を発表していただくことになっている。今後は全体会としてのまとめ作業に入っていくのでよろしくお願いいたします。

（3）議 題（進行：会長）

（1）各委員会の検討結果について

事務局： ****<概要説明> ****

会 長： 各まちづくり委員会の委員長さんから説明をお願いしたいと思うが、住みたくなるまちづくり委員会については副会長が到着したところで発表していただく。活力のあるまちづくり委員会の委員長から発表をお願いしたい。

活力あるまちづくり委員会委員長： ****<資料6について説明> ****

会 長： ご意見・ご質問があればお願いしたい。

委 員： 財源問題にまで踏み込まないと市は動かない。

まずは市の職員が考え方を变えて、沼田市の部課長が真剣に考え、現下の状況を踏まえて市の部課長にもっと勉強してもらいたいということを提言に入れて欲しい。

もっと柔軟に沼田市に対応してもらわないと、「これは良いことだが、お金がないからできない」と言われてしまうと何も進まないということにもなる。ひとつでも良いから実現ができるということが重要。

会 長： 他になれば新しいまちづくり委員会について、委員長から発表をお願いしたい。

新しいまちづくり委員会委員長： ****<資料7について説明> ****

会 長： ご意見・ご質問があればお願いしたい。

アドバイザー：（テーマの絞り込みが重要との発言あり）

会 長： アドバイザーからは、これから絞り込みが必要なのではないかというご意見をいただいたが委員の皆様からも意見があればお願いしたい。

委 員： 必要な部分はまちづくり委員会でやるとしても、全体の会議の中で議論しないと10年後はどうするのかというしっかりとした構想はつくれない

と思う。

沼田市には、色々な方針があつて、何をするとどうなるということが全く市民には見えない。ある程度全体で話し合いながら沼田市全体のことを考えなければならないと思う。

委員： 全体で議論することについては私も賛成。まちづくり委員会には委員が集まらず、具体的なことを出しても、まとめではこういう表現になってしまう。

「空家」対策で出てくる遊休農地をセットにした考えや、高齢者が子どもを連れていける屋内施設が欲しいという考え方など、多分野に渡るものもあるので、やはりひとつの会議である程度、練ってから分科会をやった方が良いと思う。沼田が持っている本当の資源に手を加えて、変に変わってしまうことは逆効果のように考えている。

「景観条例」というのもひとつの方法で、この景観は変えないというものをつくって、それを沼田の売りにする。沼田に來たい人だけ呼び込むという方法に視点を変えるのも良いと思う。

委員： この結果をどう実現してもらえるのか。どのレベルまでこの会議でまとめたらよいか分からない。地域振興を目指して皆の心をまとめるような中心となる組織や体制が十分でないと感じる。まず実現できる体制や財源を含めて決めていく必要がある。

副市長： 市民構想会議で皆さんから出されたご意見を踏まえて市政を推進していくかたちにするのが、市民と行政が協働してまちづくりできるようにするための礎となると考えています。このまま出されても財源が手当てできる部分だけ摘まむということになってしまうので、市政が受け止められる方向性をご議論いただいて出していただいた方が、市としては対応がしやすいということと言えます。

委員： 市の部課長に前例が無いからやらないという考え方があり、新しい仕事は一切できない。それを打ち破るための市民構想会議だと思っているから厳しい発言をしている。前例がなければそれを壊して新しいことを行政はやらなければいけない。

委員： 例えば最初の仕事のあるまちについて、ここには皆の仕事があるが、魅力のある仕事は少なく、クリエイティブで楽しい仕事はあまりないという実態。今後どうしたら仕事を創り出すことができるのかだと思ふ。

ふたつ目の高齢化社会については、高齢者・定年退職された方がやりたいことを喜々としてやっている姿は本当に楽しそうに見える。週末リゾートの考えも含めてどうしたら良いのか考えれば、議論が進むのでは。

総花的でなくやるのがこの市民構想会議なので我々が具現化する視点で議論を進めればもっと楽しい市民構想会議になる。

委員： 自分たちが迷惑しているということで「空家」対策、耕作放棄農地、中山間地域の関係からの有害鳥獣被害などを、いままでは不満という形で言ってきたが、それらを網羅してできるのは行政しかない。

網羅して計画を立てられるのはやはり行政しかなく、行政が中心にならなければ取り組みが進まない。地域で課題となっていることに踏み込んで、課題を仕事につなげられれば良いと思う。

委員： 沼田市は業態的には恵まれている。地域の主な産業としては、観光と農業、農業も六次産業化と称して地方が元気になるためにはどうしたら良いのか傾注して農産物のブランド化の促進したりと取り組みが進んでいる。

地域の魅力は随分と発信できていて、住民も元気であると感じている。グローバルな観点で沼田の長所を活用する取組に欠けるところがあり、自前の長所をもっと大きな市場にするとところが疎い。

良い資源をもっているながら、どう活用し、業態をもっと広げていくかが金融の立場からすると惜しい。行政にお願いするとすればこんにやくなどを、加工して産業化することができるなど、気付きの部分を支援してもらえれば有難い。

不満を総花的に定義したところで、それらに行政が細かく手を入れることが必要でないように感じるので、問題点を絞り方向性を示していただければ良い。

委員： 「空家」対策については既に市でも着手していて、取り組みを進めている。学校については旧南郷小で取り組みを始めている。

国・県のホームページを毎日チェックする担当者を設置してほしいとお願いしている。国・県のホームページには必ず自分のまちにマッチする施策や補助金・交付金が掲載されていて、利根沼田振興局では各部署で直接我々の要望を聞いて補助金・交付金を手当てしているが、こうした事実について市の担当者はほとんど誰も知らない。市民構想会議からの意見として、そういう部分を我々に提供してという提言をすることは良いと思う。

高齢社会については、顕著なのは60歳を過ぎた方が一種の交通弱者になっている。市内ではイベントの集客力があって、人口が5万人足らずのまちで1万人単位の人が集まる。例えばオータムフェアをやっているが、毎年千人単位で来場者が増えている。前橋や高崎に行けない地元の方も子どもや高齢者を中心として増えている。高齢者の方が楽しめる施設などは、市民構想会議で具体的に出し合って、民間の方が手を上げて市当局に事業をやるということを持ち込めば、市は受けると思う。各地元で市議員さんを含めてよく相談して、市議員経由で市に持ち込むのが現状からすると最も良い。目的があって、かたちができたものをぶつけないと市では動いてくれない。

もう少し具体的に議論を進めた方が良いと思う。

委員： SNSの担当者が市にいるべきだと考えている。社員がSNSをやっていたことで、急激に来場者が増えた。そういう時代なので市でも早急に対応してもらいたい。

会長： 当面は全体会として議論を進めて、必要があればまちづくり委員会に分散して議論するというご意見が大半であるが、その方向で進めさせていた

だくことで宜しいか。

次回引き続き議論するという形にはなるが、その方向で進めさせていただいて具体的に仕上げていくということで宜しいか。

委員： 行政のシステムとして規定があって、そこから外れないということが前提になっている。もっと柔軟な対応が必要である。

会長： それでは副会長が到着したので、住みたくなるまちづくり員会の報告書について補足説明をお願いしたい。

副会長： ＊＊＊＊＊ <資料5について説明> ＊＊＊＊＊

会長： 只今の報告について何かご意見・ご質問があればお願いしたい。特になければ、今までの討議、また3つのまちづくり員会からの報告を基にして、次回から提言に向けたまとめをしたい。